

1994年11月3日 南米日食

編集部

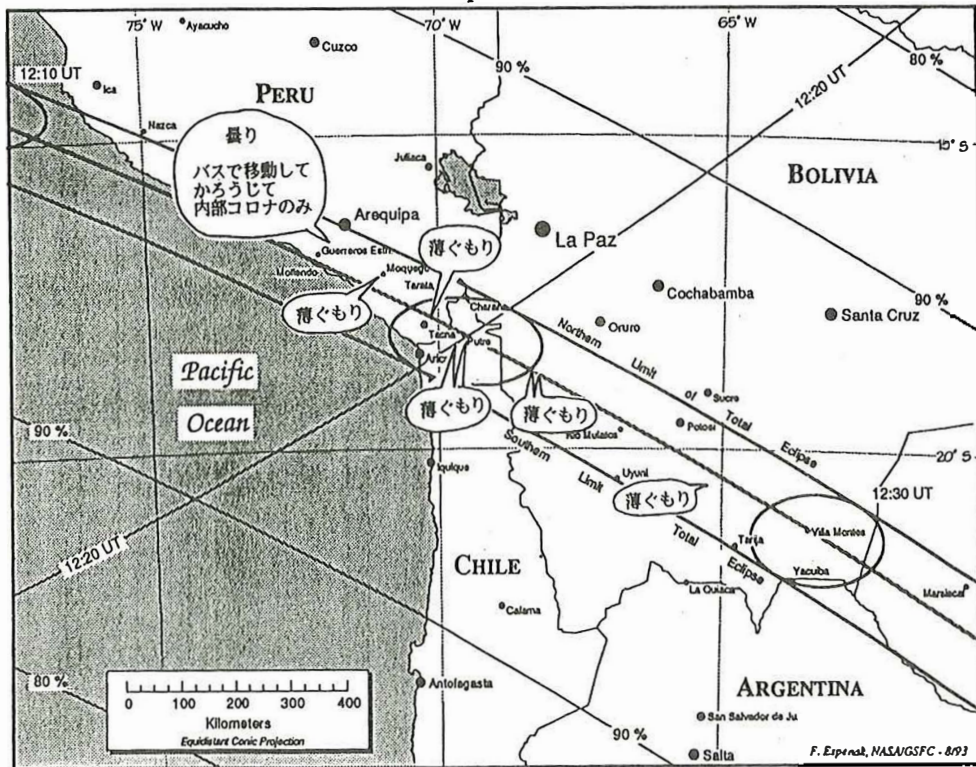
南米日食が終わってほぼ1カ月たちました。遠征された方は、写真やビデオの整理で今だに忙しいことと思います。現在までに日食情報センターに寄せられた情報から、今回の日食に関して第一回目のまとめを簡単にしてみたいと思います。まだ全体の状況を判断するには情報不足ですので、次号で最終まとめをします。情報をお持ちの方は、ぜひ報告をお寄せ下さい。

☆ 日食の天候

日食当日の天候に関しては、NASAの資料に Jay Anderson 氏の解説が発表され、日食情報にも掲載されました(1994.No2)。プロの観測隊はこの資料に加えて独自の現地調査で観測地を決めたことは言うまでもありませんが、アマチュアの隊(旅行社主催の大部分)は、天候に関してはほとんどこの資料に頼ったのではないかと思います。

結果は以下の図に示しますが、当初の予報とはおおむね逆の結果に終わったようです。

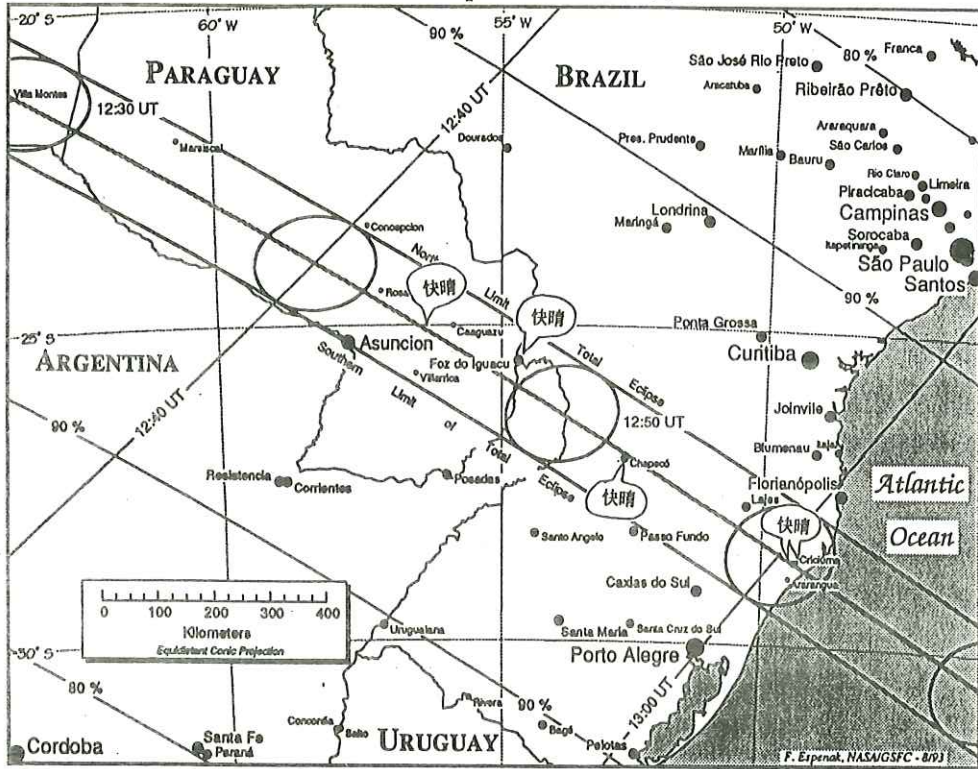
Figure 4: THE ECLIPSE PATH IN WESTERN SOUTH AMERICA
Total Solar Eclipse of 3 Nov 1994



《日食帯前半の様子》

《日食帯後半の様子》

Figure 5: THE ECLIPSE PATH IN EASTERN SOUTH AMERICA
Total Solar Eclipse of 3 Nov 1994



天候の表し方については非常に難しい問題があります。「晴れ」「薄ぐもり」「曇り」の区別はどこでつけるか、という問題です。

雲量0の快晴の場合は問題ありません。しかし、雲が少しでもある場合は、観測者によって表現が非常にばらつきます。写真撮影にほとんど支障がないくらいの雲があった場合でも、かろうじて内部コロナだけが見えるくらいの雲があった場合でも、表現は「薄ぐもり」とされる場合が多いのです。

観測した立場に立てば、とにかくコロナが見えたのだから「曇り」とは言いたくありません。皆既中に暗くなると雲が目立たなくなる、ということもあります。いずれにしろ、天候表現を「良い方にシフトする」傾向があることは否定できません。また、ベテラン観測者と初心者では、ベテランの方が天候に対する評価がきびしく、初心者は甘い傾向があります。初めて日食を見た人の場合、上記の「内部コロナがやっと見える状態」でも「晴れ」と表現される場合があります。日食情報センターでは、91年の天候のまとめをするためにアンケートをとりましたが、今だにまとめができないのはこのせいなのです。

一方では「そんなことを議論するのは意味が無い。見た本人が晴れたと思うのなら、他人が横から、あなたの所は曇りだったんですよ、など言うのはおかしい」という意見もあります。

従って、このまとめで使われている表現は、上記の問題を含んだ上でのものであることをご承知ください。

NASAの予報との詳しい比較は、次号に掲載したいと思います。

☆ 日本からの遠征者

来年の東南アジア日食を控えて、今回はそれほど多くの遠征はないのでは、という予想がありました。結果はかなりの人数が遠征をしたようです。旅行社やサークルが主催したツアーの他に、自主ツアーや個人的に出かけた方も多く、人数の把握は非常に困難です。現在の見積では、少なくとも700～800人は出かけたと思われます。情報センターではできるだけの調査をしたいと考えていますので、「自分の参加したツアーは何人参加でどこどこで観測した」という情報を、できるだけ多くお寄せ下さい。次号にまとめたいと思います。

☆ 各地からの報告

日食が終わって間もない忙しいところ、多くの方から報告を寄せていただきました。以下に掲載された観測地以外に遠征された方にも、報告を頂きたいと思います。次号にも引き続き観測報告を掲載しますのでよろしくお願い致します。

観測報告は、できるだけデジタルデータでお願いします。プリントアウトしたものは、できるだけ日食情報誌に紙面に合わせたものをご用意下さい。「日食情報」はA4でプリントしたものをB5に縮小して印刷しています。